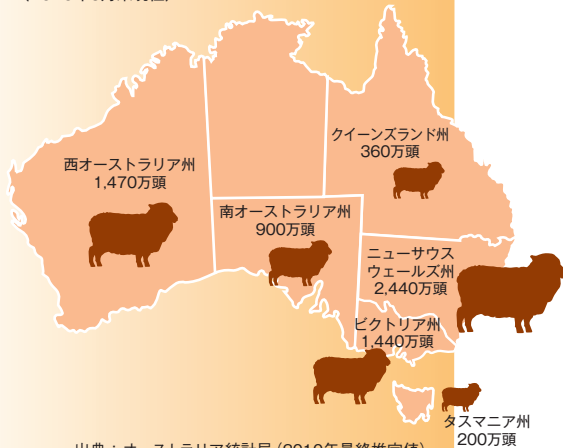


fast facts 2011

国内の総飼養頭数

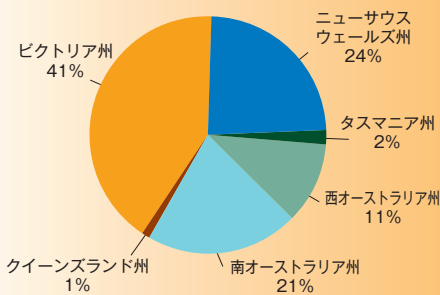
6,810万頭
(2010年6月末現在)



出典：オーストラリア統計局 (2010年最終推定値)

2010・11年度のラム肉生産量

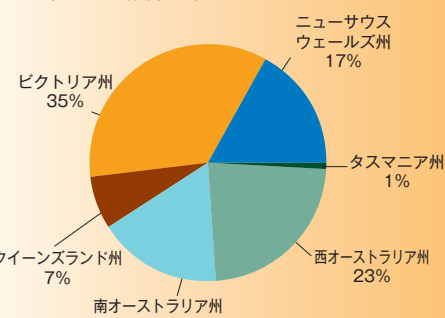
391,340トン (枝肉重量)



出典：オーストラリア統計局

2010・11年度のマトン肉生産量

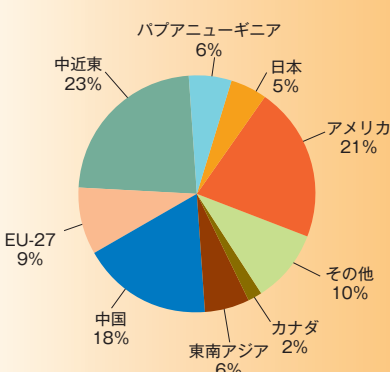
123,246トン (枝肉重量)



出典：オーストラリア統計局

2010・11年度のラム肉輸出量

156,523トン (船積み重量)



出典：オーストラリア農水産省

オーストラリア羊肉産業

オーストラリアは、世界の主要な羊肉の生産国の1つであり、マトン肉は世界第1位、ラム肉は世界第2位の輸出国です。オーストラリアの羊肉産業の総額は、41億豪ドルにのぼります。(オーストラリア国内の消費支出と食肉・生体輸出金額の合計)

羊の飼養頭数:

- 羊の飼養農家数は28,966戸。(オーストラリア統計局、2010年6月の最終推定値)
- 月齢12カ月以上のメス羊の飼養頭数は、4,230万頭。(オーストラリア統計局、2010年6月の最終推定値)
- ラムの生産農家は主に、小麦の栽培と羊の飼養が盛んなニューサウスウェールズ州のリベリナ地域、ビクトリア州とニューサウスウェールズ州のマレー地域、並びにビクトリア州の南西部と南オーストラリア州の東部の降雨量の多い地域に位置しています。また、羊は西オーストラリア州南西部、ビクトリア州の南西部やニューサウスウェールズ州の南部で、主に飼養されています。
- 農業を営む農家のうち、24%が羊肉産業に従事。
- 肉牛と羊の飼養農家の総面積は、オーストラリアの国土全体の47%。

業界の雇用状況:

- 約173,524人が、農場・加工場・小売などで赤身肉(牛肉・羊肉・ヤギ肉)産業に従事。

羊肉の生産量:

- 2010/11年度(7月～6月)のラム肉の生産量は391,340トンで、マトン肉は123,246トン。(オーストラリア統計局)

業界の市場価格:

- 2010/11年度の羊の総生産額(生体羊も含む)は、約31億豪ドル相当。(オーストラリア農業資源経済局)
- 2010/11年度の農家の総収入および資産価値490億豪ドルのうち、6%が羊(肉)生産によるもの。

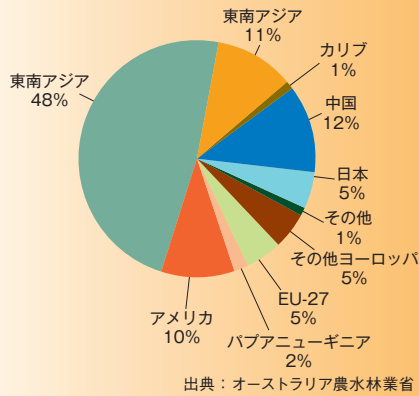
オーストラリア国内の市場価格と羊肉消費:

- オーストラリア国内のラム肉の消費支出は約22億豪ドル。マトン肉は7,800万豪ドル。(2010/11年度MLA推定値)
- 1人あたりの年間羊肉消費量は、世界の中でも多く、ラム肉は約9.1kg、マトン肉は0.5kg。(2010/11年度の枝肉重量を基にしたMLA推定値)
- 精肉購入者のうち約50%が、ラム肉を購入。(2010/11年度、ロイ・モーガン)

fast facts 2011

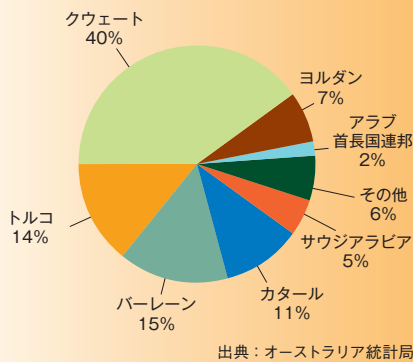
2010・11年度のマトン肉輸出量

86,222トン(船積み重量)



2010・11年度の生体羊輸出

2,916,414頭



オーストラリア羊肉産業

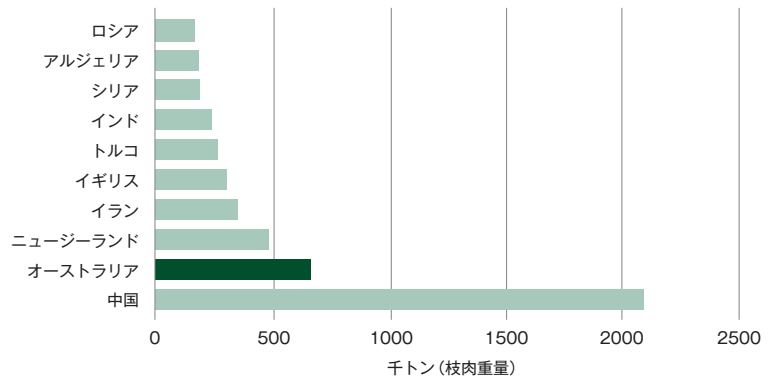
オーストラリアの輸出数量と金額:

- 2010/11年度に、ラム肉の総生産量のうち48%、またマトン肉の90%を輸出。(オーストラリア農水林業省/オーストラリア統計局)
- 2010/11年度のラム肉輸出の総額は10億6,500万豪ドル。マトン肉は4億5,300万豪ドル相当。(オーストラリア統計局)
- 2010/11年度の生体羊輸出は、3億4,900万豪ドル相当。(オーストラリア統計局)
- 2010/11年度のオーストラリアの農産物輸出総額の320億豪ドル(FOB)のうち、5%が羊肉産業(生体羊輸出を含む)。

オーストラリアの世界での位置づけ:

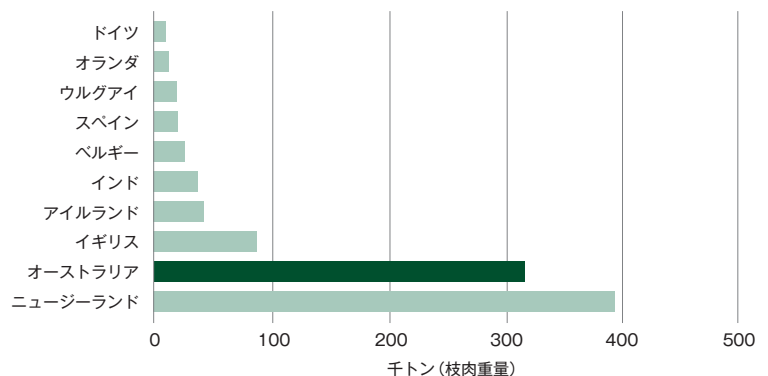
- オーストラリアは、世界の羊肉生産量の8%。(国際連合食料農業機関)
- オーストラリアは、ニュージーランドに次ぐ世界第2位のラム肉輸出国であり、マトン肉と生体は世界最大の輸出国。

羊肉(ラム・マトン)生産国トップ10



羊肉(ラム・マトン)輸出国トップ10

注：ヨーロッパ地域内貿易も含む



MLA豪州食肉家畜生産者事業団

〒105-6112 東京都港区浜松町2-4-1
 世界貿易センタービル12F
 Tel. 03-3435-6308
 Fax. 03-3438-1677
 www.aussielamb.jp



ISSN 1837-4670
 Published November 2011
 © Meat & Livestock Australia
 ABN 39 081 678 364

本書に記載された内容の正確性に関しては細心の注意を払っておりますが、記載された内容の正確性や安全性について、MLAは一切の責任を負うものではありません。